

## 商店街元氣復活に向け市の取り組みは？



橋川 芳夫

問：長期にわたる景気低迷は、経済に大きな影響を及ぼしてきましたが、市の商業は大規模商業施設の集積により、全体的には、順調な伸びを示している一方、地域商店街の衰退が激しく、18年度実施されたアンケート調査によると、前年度比80%の商店が、売上減と回答しているとともに、後継者問題で悩んでいるようです。商店街元氣復活研究会事業における経営者および消費者アンケート実施結果を受け、今後、市としてどのような取り組みをすすめていくのか伺います。

答（市長）：ビナウォークがオープンし、商業活性化の一翼を担っている一方で、商店会の伸び悩みの現状は否めません。商店会の活性化なくして地域経済の発展はあり得ないとの認識から、地域特性を活かした活性化策の検討を急いでいます。18年度から、商店街元氣復活研究会事業をスタートさせ、その一環として経営者・消費者にアンケート調査を実施したところ、

ろです。私も来月から直接各商店会に出向き意見交換を行い、商店会が抱える問題点や課題について、話し合いの場を持たせていただきます。今後は地域ごとの活性化計画を作成し、魅力ある商店街を作るための支援策を第4次総合計画に位置づけていく考えです。



▲身近な利用ができる地元商店街

## 医療費助成・小学校3年生まで拡大を！



鈴木 輝男

問：市の小児医療費助成制度は就学前までの医療費無料化がなされ、所得制限の緩和も行われました。私は、小学校3年生までの医療費無料化を提案してきましたが、市長は、拡大策を検討し、19年度の早い段階で判断することとした。現在の状況を伺います。

### 住み続けたい海老名の実現を目指し――

これは、多様化する市民のニーズや社会的課題に対し、住民と行政が互いに持っている力をもち寄り、問題解決をはかっていくことが求められています。それ故に、従来の行政主導ではなく、市民・団体も加わって役割と責任を分担し、協力しながら、自助・共助・公助の協働のまちづくりを目指していくことが重要なことだと思えます。

### 海老名市議会広報委員会から

現在、市では、平成20年度を初年度とする第4次総合計画の策定に取り組んでいます。市民の意見を計画にだけ反映させていくのが、今後の協働のまちづくりを推進していく上では、大きなポイントにつながります。「住みたい・住み続けたい海老名」を築くための第4次総合計画に大いに期待したいと思います。

今後とも、海老名市民で良かったという思いを込めて、海老名のまちづくりに努力していきたいと考えています。皆さんのご意見・ご要望をお待ちしています。

## 認知症の早期発見・診断を！



坂本 俊六

問：認知症は、早期発見・診断が、症状の進行を遅らせるとのことです。市では、「脳いきいき教室」や「脳いきいき教室サポーター講座」を開催していますが、事業の継続により認知症高齢者の早期発見・診断につながるのか、また、若年参加者が少ないように思いますが、啓発活動等、今後の対応を伺います。

答（保健福祉部長）：本事業は、認知症予防や認知症の方との共生に重点を置き実施しました。事業の中で実施する認知症のテストは、認知症の有無の判定ができ、早期発見に役立っています。また、参加者の継続的な変化を把握することで、効果的な支援が進められると考えています。今後、地域包括支援センターを中心に周知を図り、事業実施していきます。

## 中部福祉館の閉館から考えられること



渡部 美恵

問：中部福祉館は耐震診断結果を受け、6月から閉館となっていますが、この施設が、地域コミュニティの場として活用されていたことは行政も認識していたと思います。史跡地内にあり建替えできないこと、福祉施設としての役割を終えたことから、利用できなくなる間には利用し、利用できる間は利用し、利用できなくなったら閉館という行政の見解は一見正当に見えますが、近年の時代変化や少子高齢化といった課題も加わり、行政は利用可能な期間中に、市民参加、市民との協働、地域コミュニティづくりという新たな役割を地域に求め、地域は福祉館をその活動拠点としました。閉館にあたり行政は、この経過と想定される影響を考え、地域と積極的に協議し、代替策の見通しがつくまで、緊急措置として耐震工事を実施すべきと考えますが見解を伺います。



▲現在閉鎖中の中部福祉館

## 消防北分署跡地の利活用を！



鈴木 惣太



▲跡地利用、十分な検討を

問：消防北分署は手狭なことから移転することが決定され、消防車両の増強など、消防力の強化が図られるとのことです。早期の移転を望むところですが、移転が完了した後の消防北分署跡地は、どのようにするのでしょうか。当該地は、かしわ台駅の直近であり、大変利便性に富んだ土地です。北分署が移転したからといって、すぐに売却するというのは残念でなりません。市として、活用の構想はないのか、ないのであれば、自治会等に活用方法を検討してもらうなど地元意見を聴取する考えはないのか伺います。地域は地域の考え方を中心にとの観点から、第4次総合計画は、地域部会を根幹に置いて策定が進められていますが、総合計画づくりのようなソフト面だけでなく、今回のようなハード面についても、ぜひ地元の意見を反映させてほしいと考えます。

答（市長）：消防北分署の移転に伴う、現在の北分署用地の活用方法については、まだ、具体的な検討をはじめていません。第4次総合計画の策定に係る北部地域の地域部会において、公共施設の整備を求める意見が出されていることは承知していますが、まずは、跡地の活用方法について、庁内での検討を進めていきたいと考えています。

## 小田急高架下自転車駐車場について



外村 昭

問：小田急高架事業は、工事も着々と進み、7月から下り線が高架へ移行されます。高架下は、当初より、市営自転車駐車場が計画されていますが、この市営駐車場のあり方について、小田急電鉄と、どのような協議をされているのかお尋ねします。

答（市長）：現在、小田急電鉄に高架下用地の確保をお願いしているところです。

答（企画部長）：新設予定の高架下自転車等駐車場の整備内容としては、ラックの設置、照明灯、フェンスの整備等を予定しており、海老名駅周辺と同様に、この駐車場利用者に対しても、有料とする考えです。また、小田急電鉄の既設有料自転車駐車場の駐車料金が、市営駐車場と同額なるよう、小田急電鉄と協議をしていきます。



▲高架事業を議員も視察